

山梨県飲食業協同組合20周年記念式典・祝賀会を開催

山梨県飲食業協同組合（組合員40社 理事長 芹沢譲二）は、10月25日（水）、アピオ甲府において創立20周年記念式典・懇親会を開催し、組合員や協力業者、関係団体など約100名が参加した。

この式典は2部制で開催され、第1部は記念式典・講演会、第2部は祝賀会が行われた。

同組合は平成15年に創立し、今年で20周年となることから、昨年から理事を中心として周年記念式典実行委員会を立ち上げ、準備を行ってきた。

第1部の記念式典では芹沢理事長があいさつで、「組合活動を20年継続できたのは会員の協力はもちろんのこと、協力業者や関係団体の支えがあったからである。」と感謝の言葉を述べた。

式典では感謝状贈呈式も行われ、歴代の理事長3名（初代 樽井晃氏、2代目 清水勝一氏、3代目 辻和夫氏）と長年組合の事務局を務めた石上洋子氏、協力会会長の遠藤辰男氏の功績を称え感謝状と記念品が贈られ、辻和夫氏が代表し謝辞を述べた。

記念講演会では㈱フォネットの上席執行役員 稲山悟史氏から、「飲食店におけるDXについて」をテーマに、Googleなどの検索エンジンを活用した集客力向上の方法や、キャッシュレス化に向けクレジットカード決済サービスの活用による顧客満足



芹沢理事長
あいさつ

山梨県飲食業協同組合

度を向上させて新たな顧客獲得をする方法など、DX化を行うことのメリットの説明が行われ、組合員は真剣な表情で聞き入っていた。

第2部の祝賀会では、染谷光一県産業労働部長、山岸正宜中央会専務理事、中村己喜雄県商工会連合会会長、山岸専務理事長、塩沢浩昭和町長、小林一吉県調理師会会長が来賓あいさつを行い、中央会の山岸専務理事は、「組合は個々の飲食店だけでは解決が難しい経営課題を、組合員や協力業者等と連携し解決することができる。組合活動を今後も長く継続していくために中央会は組合活動の支援を積極的に行う。」と述べた。

創立20年の歩みを振り返るスライドショーでは多くの思い出の写真が映像で流され、アトラクションでは大工シンガーのサノケンが熱唱するなど、会場は大盛況となった。芹沢理事長は、「今後も山梨県の飲食業界を盛り上げる活動をさらに積極的に行っていく。」と語った。



山岸専務理事



祝賀会の様子

